

平成 2 5 年度
第 4 回 柏市健康福祉審議会
地域健康福祉専門分科会

会 議 資 料

本 編

平成 2 5 年 1 1 月 2 8 日

柏 市 保 健 福 祉 部

柏市健康福祉審議会 地域健康福祉専門分科会 委員名簿

氏名	よみ	所属など
阿 部 和 子	アベ カズコ	大妻女子大学教授
今 村 貴 彦	イマムラ タカヒコ	柏歯科医師会会長
川眞田喜代子	カワマタ キヨコ	淑徳大学教授
小 竹 恵 子	コタケ ケイコ	前社会福祉法人柏市社会福祉協議 会副会長
小 林 正 之	コバヤシ マサユキ	柏市立介護老人保健施設はみんぐ施 設長
清 水 栄 司	シミズ エイジ	千葉大学大学院教授
長 瀬 慈 村	ナガセ ジソン	柏市医師会副会長
中 谷 茂 章	ナカタニ シゲアキ	柏市民生委員児童委員協議会会長
中 村 佳 弘	ナカムラ ヨシヒロ	柏市薬剤師会会長
藤 田 武 志	フジタ タケシ	松葉町地域ふるさと協議会相談役 (前柏市ふるさと協議会連合会会長)
古 川 隆 史	フルカワ タカフミ	柏市議会議員
水 野 治太郎	ミズノ ジタロウ	麗澤大学名誉教授

目 次

1	計画策定に係る関連会議等の開催状況について・・・・・・・・・・	1
2	市民ワークショップの結果について・・・・・・・・・・	2
3	第3期計画の構成案について・・・・・・・・・・	1 3
4	本日、ご協議いただく事項・・・・・・・・・・	1 4

1 計画策定に係る関連会議等の開催状況について

■策定に係る関連会議等の開催予定

	審議会	庁内WG	市民WS	パブリック コメント
6月		7日 WG①		
7月	4日 分科会①	10日 WG② 19日 WG③	6日 WS①	
8月	1日 分科会②		31日 WS②	
9月		3日 WG④	14日 WS③	
10月	3日 分科会③		5日 WS④ 19日 WS⑤	
11月	28日 分科会④	1日 WG⑤		
12月				12/15 ～ 1/15
平成26年 1月		21日 WG⑥		
2月	13日 分科会⑤ 27日 全体会			
3月				

2 市民ワークショップの結果について

■市民ワークショップについて

1 目的

- (1) 計画策定に当たり、市民の生の声を聞く。
- (2) 計画策定及び推進に当たっての市民・地域・行政の役割分担を検討する。

2 参加者募集方法

- (1) 昨年度、ワークショップに参加した人に案内を送付
- (2) 広報かしわ、かしわシティネット(柏市HP)等による募集

3 申込者数及び参加者数

- (1) 申込者数 27名
- (2) 参加者数

第1回	18名	(男性 8名 女性 10名)
第2回	24名	(男性 10名 女性 14名)
第3回	22名	(男性 9名 女性 13名)
第4回	17名	(男性 5名 女性 12名)
第5回	17名	(男性 5名 女性 12名)

【申込者年代別内訳】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男性	11	1	1		1	3	4	1
女性	16			1	4	10	1	

4 全5回の内容

開催日	プログラム
第1回 (7月6日)	①ワークショップの目的について ②地域健康福祉の現状について ③第3期柏市地域健康福祉計画について
第2回 (8月31日)	・柱1 みんなで支えあえる地域づくり
第3回 (9月14日)	・柱2 情報発信と相談体制づくり
第4回 (10月5日)	・柱3 健やかに暮らせる地域づくり 3ページ
第5回 (10月19日)	・柱4 安全安心に暮らせる地域づくり 8ページ

第4回市民ワークショップ結果（報告）

■開催概要

日時：平成25年10月5日（土）14時～17時

参加者：当日参加者は、17名。

	今回	第1回	第2回	第3回
男性	5	8	10	9
女性	12	10	14	13
合計	17	18	24	22

目的：第3期計画の柱3「健やかに暮らせる地域づくり」について、地域ができることを考えること

■当日配布資料

- ・柏市地域健康福祉計画策定に向けた市民ワークショップ～第4回資料～
- ・第3回市民ワークショップの結果概要

■ワークショップの概要

次の3つのテーマを提示し、参加者に興味のあるテーマを選択してもらいました。

- ①地域を核とした健康づくりについて
- ②地域における救急医療や在宅で暮らせるための医療について
- ③地域の中での生きがい活動について

テーマごとにグループを作り、現状や課題について話し合い、「個人でやること」、「地域で一緒にやること」をまとめ、グループごとに発表してもらいました。

詳細は、次ページのとおりです。

■各グループの発表内容

地域を核とした健康づくりについて

現状・課題	個人でやること	地域で一緒にやること
健康知識の共有	・ウォーキングの基礎を知りたい ・体に良い日常生活 ・あいさつ ・ラジオ体操後の散歩 ウォーキングで歩数増 ・散歩（犬と） ・ウォーキンググループ ・自信 ・朝の活動の始めはラジオ体操 ・水泳水中ウォーキング ・散歩の会 ・全ての人の介護予防の総合知識 ・ゴミ拾い ・ラジオ体操 ・体操の内容 ・10年を区切りに健康知識 ～ 55 生活習慣病 55～65 メタボ改善の運動（ウォーキング） 65～75 筋力アップと骨粗相症防止 75～ 認知症予防	・<u>盛りだくさんサロン</u> ・ギムニクボール ・料理の交流 ・世代間交流 ・貯筋体操 ・レク ・お茶の間体操 ・笑いヨガ ・介護予防のためのレクゲーム ・健康知識 食事と運動が健康の両端 ・ゆる体操 ・買物 ・ノルデックウォーク（やり方指導者要） ・インターバルウォーク（やり方指導） →ロコモ防止 ・ウォーキングロードモデルの普及（柏の葉キャンパスシティ）できればコース色各地モデル1コース
近くに活動の場がほしい	・筋トレ ・町会内にふるさとセンター建設 ・ふるさと会館での体操 ・地域で運動するために、地域行事に参加するために出かける ・公園利用 ・ベンチいす	・一品持ち寄りパーティー ・<u>押しかけサロン 訪問</u> ・物々交換 ・10坪ジム ・空き家の活用
活動の周知の方法	・活動日の周知（チラシ） ・健康づくり推進員 ・毎日、タンポポ通信発行 ・<u>手紙配り お見舞い等</u>	・<u>柏市がウォーキング、体操、太極拳など地域エリアで参加できるようにすすめる</u> ・童謡・情じょう歌の会 ・ふるさと会館便り発行 ・近隣センターは行事（地域）PRチラシ、ポスターに協力する ・町会の掲示板 ・市からの補助金 ・楽しくなければ長続きしない

地域における救急医療や在宅で暮らせるための医療について

現状・課題	個人でやること	地域で一緒にやること
信頼できるかかりつけ医を持つこと	・自分にあったドクターを探す、情報を集める ・自分に合う（信頼）医療機関を見つける努力 ・各家庭で必ずかかりつけ医を持つこと 近所から情報をえる ↑ ・地域情報を日ごろから集める ・かかりつけ医を明記して、わかりやすい所へはっておく - 誰にでもわかりやすく	地域で一緒にやること ・地域医療情報の一覧を各戸に配布 ・地域内の病院、診療所などの情報提供 ・かかりつけ医カレンダー ・町会と医療機関との交流
救急車の適正利用	・救急医療のランク別を学習する ・自分の健康状態の把握 ・健康カードを作る ・日頃より、家族、身内、親しい友人等に自分の状態を話しておくことも大事 ＝ ・主治医とのコミュニケーション、よく相談しておく ↓ 意思決定 ・万一の場合どうしたいか意思表示 ・家族間での意思確認 ・家族や自分の体調を日頃から把握しておくこと、異常の場合は救急車を	・救急の講習会を実施する ・ケイモウ活動 ・不正利用の実例公表（地域別） ・救急当番医表の配布、ランク表
医療情報の地域拠点（包括支援センターのような） 医療従事者の発掘	・便利帳の活用 医療機関等 ・もし動けなくなった時は、問医療を活用して自宅で過ごしたい旨伝えておく ・隣近所と井戸端会議風に体調の話や主治医の話等を話題にするのも良いのでは	相談拠点にも ・医療情報センターの設置 ・医療資措置交流〇〇 ・情報の一括管理 ・医療支援ボランティアの育成 ・TOP DOWNの施設が必要

地域の中での生きがい活動について

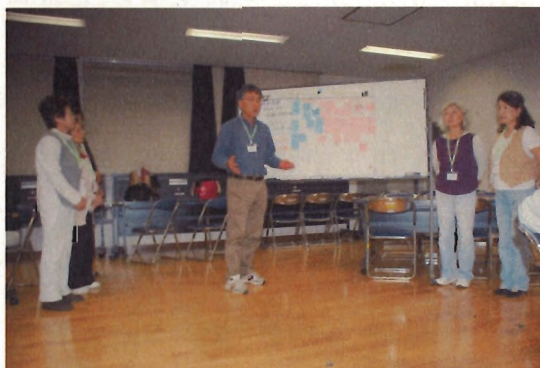
現状・課題	個人でやること	地域で一緒にやること
男性の力を地域で引き出せていない	<u>自己発信してもらう</u> ・<u>夕焼け小焼けのパンザマストがなった後、子ども達が遊んでいた誰にでも注意するように（散歩～パトロール）</u> ・グループを作る 男性が参加 ・退職後の経験も、力もあるお父さん達をどのようにして地域の中で活かしていけるのか サロン等を利用して ・男性料理教室などを開く ・コーラスグループへの誘い ・自分の得意分野をアピールし、地域に貢献	・<u>個人の持っている能力・特技を上手く活かせる組織作り</u> ・<u>地域インターンシップ制度を作る</u> ・男性 特技を活用し、大いに地域で活躍していただきたい（植木の選定や電気工事、水道工事を有料で、登録制） ・親父の会をつくる 飲み会、小旅行（ふれあいの場を作る） ・男性の力を地域で生かせることが大きい（登録制にしたらい） ・少年野球などのチーム参加してもらう ・学校などの生涯学習で、資格などを活かす ・自分の特技（なにが出来るか）例えば庭木の剪定その他を身近な地域に発信する 町会でボランティア登録 ・趣味で作ったものなどを展示するような機会を作る
孤立している状況が増えている	・声をかける ・孤立する人は弱いところがある グループ活動すると、強い人弱い人が出てくる それを和らげる人が必要→生きがいに <u>出会いの場</u> ・<u>ゴミだし日等の挨拶を工夫</u> <u>おはようございます+急に寒くなりましたね 等</u> ・独居の人たちが独立せず、少しでも身近な地域で生きがいが見つけられるようにサロンなどで情報をうかがう ・生きがい活動として！ 自分の力（実力）を引き出し、（ボランティア精神で）活躍をする（市の施設の利用）	・<u>子ども回覧の日を作る</u> ・民生委員のような人、見回りの人を増やす ・誰でも参加できるふれあいの場を多くする ・地域の子ども、高齢者、独居老人の見回りや、ゴミだし等の手助けをする ・地域のおせっかいサロンへの参加を促し、なるべく外出を多くしていただく（他人とのおしゃべりの時間を作る） ・町会に福祉部を作り、まず相談できるような仕組みを作る ・地域で決まった場所に決まった時間に誰もが参加できる健康体操等を実施 ・引きこもりの子ども カウンセリングできる場を作る ・常に地域の情報を流し、孤立する人が参加しやすい場所を作る ・コミュニティカフェのような居場所を作る ・孤立してしまう人の心の動きを勉強できる場所があると良い どうすればよいか、救いの手になれるか分からないので ・若いときから年に1～2回男性の集まり、飲み会などイベントがあったら人間関係が出来る
情報の受信・発信が上手く出来ていない	・自分の出来ることを発信する ・自分の知っていること、場所などを広める（情報誌作成） ・町会の回覧板などが主な情報源ですが、何か別の伝達方法はないでしょうか？掲示板等	・<u>違う世代と出会うイベントを作る</u> ・ボランティアを提供する人、ボランティアを必要とする人の情報を分かりやすくする ・パンザマストの利用で、定刻に市民体操を早朝に（公園や地区の広場等） ・趣味などを通じて、活動をし、地域の皆さんと交流を広げる ・地域からインターネットを利用して、情報の発信はどうか

■ワークショップの様子

グループに分かれて話し合い



グループごとに発表



第5回市民ワークショップ結果（報告）

■開催概要

日 時：平成25年10月19日（土）14時～17時

参加者：当日参加者は、17名。

	今回	第1回	第2回	第3回	第4回
男性	5	8	10	9	5
女性	12	10	14	13	12
合計	17	18	24	22	17

目 的：第3期計画の柱4「安全安心に暮らせる地域づくり」について、地域ができることを考えること

■当日配布資料

- ・ 柏市地域健康福祉計画策定に向けた市民ワークショップ～第5回資料～
- ・ 第4回市民ワークショップの結果概要
- ・ 私たちの宣言！

■ワークショップの概要

次の3つのテーマを提示し、参加者に興味のあるテーマを選択してもらいました。

- ①防災・防犯の取り組みがあり、安全安心に暮らせる地域
- ②移動や住まいが保障され、安全安心に暮らせる地域
- ③誰もが“権利”を守られ、安全安心に暮らせる地域

テーマごとにグループを作り、現状や課題について話し合い、「個人でやること」、「地域で一緒にやること」をまとめ、グループごとに発表してもらいました。

詳細は、次ページのとおりです。

■各グループの発表内容

テーマ：防災・防犯の取り組みがあり、安全安心に暮らせる地域

現状・課題	個人でやること	地域で一緒にやること
防災における連絡方法	・<u>声のかけ合い</u> ・<u>避難をスムーズにできる様、常に把握を！！</u> ・自分の五感を研ぎ澄ます ・地元の危険個所を把握すること ・家族で避難時の心得や場所の確認をする	・日常的に近所と井戸端会議の話題にすると良い ・<u>避難場所（地域）を決めていく</u> ・<u>危険地区を歩いて地域の人達で確認する</u>
防犯 空巢、車上ねらい、オレオレ詐欺等	・<u>共働き家庭等全く昼間留守の場合は、隣近所へ密に</u> ・<u>隣近所（向こう三軒両隣）との普段のコミュニケーションを上手に！！</u> ・<u>空巢ねらいの防止には各自の自覚を喚起する事。随時必要に応じて放送する</u> ・<u>防犯ベルの携帯</u> ・<u>個人も防犯ブザーを持つ</u> ・気軽に相談出来る人がいると良い	・地域のパトロールをこまめに行う ・<u>防犯カメラの設置を地域に！！（町会や自治体）</u> ・<u>情報収集の必要〔例〕危険地域の把握の必要</u> ・<u>警報の設置 わかりやすく隅々まで徹底するような機器を設置して欲しい</u> ・<u>街灯をもっと明るく</u> ・<u>近隣同士で目配りの習慣をつけよう</u> ・防犯パトロールは効果があるが仕方を考える。例えば集団でするのも良いがパトロールの時間を続ける方が一層良い
訪問販売、電話勧誘等の対策	・<u>だまされたふりをして犯人の逮捕に協力して、オレオレ詐欺の撲滅に寄与する</u> ・<u>家族との関係を密にする</u> ・<u>家族（離れて生活している御子息達）との連絡を密に！！</u> ・<u>“時々は顔合わせを”</u> ・あいまいな返事はしない。断るときははっきりと ・トーク力をつける ・他の人の経験談を聞くことも大切 ・家に入れない。家族に隠し事をしない	・問題が大きすぎて対策なし

テーマ：誰もが“権利”を守られ、安全・安心に暮らせる地域

現状・課題	個人でやること	地域で一緒にやること
「困っている」ことを発信できない (本人)	・「言えない、言い出せない」を受けとめる ・制度、施設の情報を伝える ・問題のある情報を発見した時、それを通報する。その施設等情報を知る努力 ・どんなことでも話し合える人間関係の構築 ・得た情報を「うわさ話」で終わらせない努力 ・普段から発信しやすい環境にするためにコミュニケーションを取っておく ・回覧板などの手渡し ・道で会ったら挨拶する ・挨拶 ・日頃から地域で仲良くなっておく	・親睦会を作る ・お祭りなど地域のイベントを活性化させる ・町会単位等での情報共有 ・小グループの支援体制 ・地域で見守る制度を確立 みんなで普段から確認 ・ふるさと会館等の活用 集まりやすい雰囲気作り ・十坪ジム等の小さなスポーツジムが有ると好都合 ・朝のラジオ体操のようなグループの成長を助ける ・困ったことを普段から「みんなで」言い合う ・当事者、家族の精神的ケアができる体制 ・地域で支援員養成
問題を認めない (近くの人が)	・毎日見守る体制(新聞など) ・「これはおかしい」と異変を感じたらどこかに相談する	・制度のPR ・支援センターなど情報提供
問題が深刻化するまで気がつかない (周囲の人)	・本当に深刻なら公的な制度、専門家に頼る ・人権が守られているかいないかで判断する ・公にすべきかどうかよく考える ・できる限り、周りを見ておいて異変に気づくようにする ・公的権力に知らせる ・常に個人の権利に配慮する	・問題の情報を知らせる施設等のPRの努力 ・問題を気付きやすくするために学校に第3者が参画する(小学・中学校の場合) ・公的機関に相談する ・司法の判断を仰ぐ ・法的な措置を取る ・自治体が出している情報を地域が気にしながら様々な知識を共有しておく ・誰に相談して良いかわからない場合、「～なら私が相談できます。」といった役割を地域で作る ・学校での教育(人権についての) ・体罰絶対禁止(昔は・・・と言わせない) ・広報(行政の) ・「認知症は病気で、恥ずかしくない」ということをPRする

テーマ：移動や住まいが保障され、安全安心に暮らせる地域

現状・課題	個人でやること	地域で一緒にやること
移動手段の充実 スーパーの大型化、買物、ゴミ出し、通院	・ <u>ボランティアに参加する</u> ・ 移動のお手伝い ・ 買い物に行く時は一緒に行って荷物を持って散歩がてら帰る ・ 個人の商店が少なくなって買物難民が出た ・ 民生委員さんと情報交換しながらゴミ出しの有料のお手伝いを伝える	・ ゴミ出し、付き添い等ボランティア組織を作る ・ <u>ヘルパーさん（包括的支援センター）との連携を組織化する</u> ・ <u>地区社協に実態を説明して協力を得る</u> ・ 行政ボランティアの協力（推進員・民生委員） ・ 町会で！！どんな助けがあるとうれしいですか ・ ゴミ出しや付き添いを組織化し資金を確保 ・ 資金（助成金）支援を ・ 組織化する為に勉強会をする。常に勉強（2ヶ月に1回程度） ・ ボランティアのモチベーション、スキルをあげる ・ 町会に福祉部を作り介護保険で出来ないところを補う ・ コーディネーターの養成（育成） ・ 福祉有償移動（自動車による）サービスの充実 ・ <u>届けてくれる店を高齢者に教えてあげる</u>
体力づくり	・ <u>各自ラジオ体操をやる</u> ・ 自分で体力づくりをする ・ <u>筋力アップのレシピの作成 誰でも簡単にできる動作</u> ・ ラジオ体操をやる	・ <u>地域でもラジオ体操を組織化する</u> ・ 朝のラジオ体操を利用してはどうでしょうか ・ 体力づくりにラジオ体操を始めたいが理解をしてもらいたい ・ <u>段差のない通路づくりも大切。転んだ時は大変</u> ・ <u>暗い通りは早めに街灯をお願いする</u> ・ バリアフリー化して歩きやすく。ウォーキングができるように ・ 町会の健康づくり係が一緒にやって欲しい
人間関係 個人情報への壁	・ <u>サロン活動に参加</u> ・ <u>普段から親しく話し合える仲間づくりをしておく</u> ・ <u>朝のゴミ出しや散歩の時の挨拶の中で“こんにちは”以外にも世間話をする</u> ・ 困りごとがある場合は気軽に声をかけられるような関係づくり	・ サロン活動の充実 ・ <u>よくばりサロン デイサービス代わりになるたくさんのメニュー</u> ・ 老人会やサロン等に参加できるよう促す ・ 困りごとはみんなで考えて解決する ・ <u>町会の協力、理解が必要</u> ・ <u>活動の会場を提供する</u> ・ ふるさと会館便り（公民館便り）を発行してもらいたい ・ <u>暮らしに役立つミニコミ新聞の発行 情報発信</u>

■ワークショップの様子

グループに分かれて話し合い



グループごとに発表



参加者の皆様



3 第3期計画の構成案について

■第3期計画の構成案

第1章 総論

第1節 計画の策定に当たって

- 1 計画策定の背景
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間

第2節 地域健康福祉を取り巻く状況

- 1 柏市の状況
- 2 第2期計画の評価と課題
- 3 第2期計画評価の総括と第3期計画の方向性

第3節 基本的な考え方

- 1 地域健康福祉像
- 2 計画推進の重要な視点
- 3 計画を進める上での仕組み
- 4 基本方針
- 5 計画の体系図

第2章 各論 別添資料

- 柱1 みんなで支え合う地域づくり
- 柱2 情報が共有され相談しやすい地域づくり
- 柱3 健やかに暮らせる地域づくり
- 柱4 安全安心に暮らせる地域づくり

第3章 重点施策

第4章 推進体制

第1回検討事項

昨年度協議済み

第1回検討事項

第2回検討事項

第3回検討事項

第4回検討事項

※ 参考

【各論の柱について】

第2期計画から第3期計画への移行に当たって、柱の数を5本から4本へとしました。なお、削った柱については、より関係の深い他の柱にそれぞれ位置付けていきます。

4 本日、ご協議いただく事項

1 「柱1～柱4」の修正について

別添資料

①前回の審議会でもいただいた主なご意見等につきまして、次のとおり修正等しました。

- ・市の役割における「新たな活動の場の創出支援」について、既存の活動のみに限定される印象を受けることから「独創的な」という文言を加えるべき。
→対応：別添資料4ページの「②目的型組織の支援」の6行目に「独創的な活動への支援の充実」という表現を加えました。
 - ・「地縁型組織や目的型組織同士の連携の促進」について、活動の上では市の支援が大きな意味を持つことから「支援」という文言を加えるべき。→対応：別添資料5ページの連携の促進の記載部分について「支援」という立場を明記しました。
 - ・「ゲートキーパー」の言葉の説明を加えるべき。
→対応：別添資料20ページの下段にゲートキーパーについての解説を追加しました。
 - ・防犯対策に関し、子どもや女性に起こり得る犯罪について、具体的にイメージしやすい表現にすべき。
→対応：別添資料27ページの「③防犯対策等の充実」の1行目に「不審者による声かけや引ったくり」という表現を加えました。
 - ・権利擁護に関し、突発的なできごとにより一時的に精神状態が不安定になった人も対象をしていくべき。
→対応：別添資料31ページの「②権利擁護の仕組みの周知と利用促進」の2行目にそれらの記載を加えました。
 - ・相談窓口の一覧を掲載すべき。
→対応：別添資料33ページに主な相談窓口を掲載しました。
- ＜その他、いただいたご意見＞
- ・気軽に集える場がほしいという意見が多いが、地域でその場を作るのは難しい。市が中心となってコーディネートすべき。
 - ・市の施設を借りる手続が複雑である。
 - ・地域づくり推進員がコーディネーターの役割を果たしているが、地区担当の保健師等と連携して地域づくりを進めていくべきである
 - ・K-N e tについて、町会への働きかけを積極的に行うとともに、町会の意識を変える仕組みを作るべきである。

- ②市民ワークショップの結果を踏まえ、柱3及び柱4の「市民の役割」と「地域の役割」を作成しました。

以上の対応等につきまして、ご意見、ご提案等をお願いします（修正等の箇所については、赤字で記しています。）。

2 「重点施策」について

別添資料（P35～P44）

- ・ 前回ご審議いただいた重点施策4施策につきまして、各施策ごとに、①現状、②目指すべき方向性、③市の取り組み、④進捗管理の4項目に整理し、まとめました。つきましては、ご意見、ご提案等をお願いします。

3 「計画の推進・評価体制」について

別添資料（P45～P48）

- ・ この計画の推進・評価体制について、庁内ワーキングの協議をもとに、事務局案を作成しました。つきましては、ご意見、ご提案等をお願いします。

4 その他

- ・ 本日、ご審議いただいた内容をもとに修正等を行った上で、平成25年12月15日から平成26年1月15日までパブリックコメントを行うことを予定しています。

